

2017年06月30日

住友林業ホームテック 特殊金物付き耐力パネルが防災技術評価認定を取得 ～余震に強い家実現～

住友林業ホームテック株式会社(社長:徳永 完平 本社:東京都千代田区)の「特殊金物付き耐力パネル」が、日本建築防災協会の防災技術評価認定を取得しました。同社、住友ゴム工業(株)ならびに住友林業筑波研究所が共同開発し、耐震性と制震性を兼ね備えているのが特徴です。

住友林業ホームテックは住友林業の100%子会社でリフォームの専門会社です。旧家※1再生に強く年商は約670億円。オリジナルの耐震・制震技術で、安心・安全・快適な住まいづくりを提案しています。

■特殊金物付き耐力パネルの特徴

耐力壁でありながら、地震エネルギーを吸収する性能を持ち、耐震性(強度)と制震性(減衰)を実現します。

パネルの中心に住友ゴムの高剛性・高減衰ゴム※2を搭載し、地震の揺れを熱エネルギーに変換。設置しない場合に比べると地震時の建物の変形を最大で30%※3低減し、建物の損傷や家具の転倒による二次災害を防ぎます。

耐震診断上の壁基準耐力※4が6.1と強いうえ、制震性能も高めるので、繰り返し発生する大きな余震にも強い家を実現します。

施工の際にも、床や天井をはがさずに壁面に設置できるので工期も短くなります。

同パネルの施工対象は住友林業の建物に限りますが、将来的には一般住宅にも適用する予定です。

一般的な片筋交い R-GSパネル



壁基準耐力 3.2 壁基準耐力 6.1

※1 旧家…住友林業ホームテックは1950年(昭和25年)以前に建てられた住宅を旧家と呼んでいます。

※2 「高剛性・高減衰ゴム」…全国の斜張橋(しゃちょうきょう)にも採用され、多くの車が行き来する場所でも運動エネルギーを熱に変換し、振動を吸収しています。また、超高層ビルにも使用されるなど、耐久性にも優れています。

※3 耐震診断の評点1.0、延べ床面積40坪と仮定した建物に各方向2箇所、計4箇所設置した場合(住友林業筑波研究所の解析結果による)。耐震診断の評点とは「耐震診断の上部構造評点」のことで、1.0以上が現行の建築基準法に適合した建物と同等とされています。大地震でも「一応倒壊しない」とみなされる基準です。

※4 壁基準耐力…既存木造住宅を耐震補強する場合に用いる耐力壁の強さ。数値が大きいと強度が高い。

日本建築防災協会 防災技術評価認定 評価番号:DPA-住技-72



以上

《本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。》

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 真鍋・佐藤

TEL:03-3214-2270

《お客様お問合せ先》

住友林業ホームテック株式会社 営業推進部

TEL:03-5217-5113

© SUMITOMO FORESTRY CO.,LTD. ALL RIGHTS RESERVED.